

2025 年 11 月 20 日
一般社団法人 日本造船工業会

第 11 回 ASEF 総会の開催について

～国際海事機関（IMO）への関与について一層の強化を合意～

世界の主要造船団体で構成する国際連携組織である ASEF[※]の第 11 回総会が、2025 年 11 月 11 日（火）に横浜ベイシェラトンホテル&タワーズにおいて、（一社）日本造船工業会の主催により開催されました。

本総会には、ASEF のメンバー国である日本、中国、韓国、トルコ、マレーシア、シンガポール、スリランカ、インドネシアの造船工業会等の代表者が参加し、ASEF としての国際海事機関（IMO）への取り組み強化を中心に、今後の活動方針について活発な議論が交わされました。

ASEF 会長を務める日本造船工業会の檜垣幸人会長が本総会を開会し、同会の斎藤英明専務理事が会議の議事進行を務めました。

会議では、ASEF の過去 1 年間の活動に関する報告が行われ、IMO をはじめとする各種会合への出席状況や提出された技術文書の概要が紹介されました。また、直近に開催された日本、欧州、中国、韓国の首脳が参加した JECK 造船首脳会議において採択された議長声明も紹介されました。同声明では、造船業界が IMO の議論に積極的に貢献していくことが、世界の海事産業の持続的な発展に不可欠であるとの認識が示され、IMO の諮問資格を有する国際造船団体を通じた関与の強化が確認されたものです。

同声明は IMO の諮問資格を有する国際造船団体であり、世界の新造船建造量の約 9 割を占める ASEF の責任と役割を再確認するものであり、今後の ASEF 活動における IMO への関与を一層強化し、国際的なプレゼンスを高めていくことが本総会において合意されました。



開会の挨拶を行う檜垣会長（中央）



総会の様子

また、翌日の 11 月 12 日（水）には、第 16 回 ASEF フォーラムが開催されました。本フォーラムには、ASEF のメンバー国である日本、中国、韓国、トルコをはじめとする各国の造船工業会のほか、国土交通省、アジア船主協会、アジア船級協会連合、造船、海運、船用、大学等を中心に合計 85 人（うち海外からは 34 人）の海事関係者等が参加し、造船各国の最新動向や技術的課題、新燃料の供給見込み等の脱炭素に向けた取り組み等についての講演に耳を傾けました。

※ASEF（Active Shipbuilding Experts' Federation）について

主要造船工業会を核とする造船業の国際連携組織。アジア造船技術フォーラム（2007 年創設）を母体に 2015 年 11 月公式設立。2017 年 12 月に国際海事機関（IMO）の諮問資格取得。2018 年 1 月から本格活動開始。技術的な課題（特に IMO）について、各国造船業界間の対話と協力を通じて、国際海上輸送の健全な発展と世界の海上安全・海洋環境保護・海上保安の推進に貢献することを目的としている。2024 年秋から 2026 年秋まで日本造船工業会が会長国と事務局を務める。現在の ASEF 会長は、日本造船工業会の檜垣幸人会長（今治造船社長）。加盟団体（11 ヶ国）：日本造船工業会（SAJ）、中国船舶工業行業協会（CANSI）、韓国造船海洋プラント協会（KOSHIPA）、トルコ造船工業会（GISBIR）のほか、インド、インドネシア、スリランカ、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシアの造船事業者団体または造船会社（下線は理事国）。

本件に関するお問い合わせ先

一般社団法人 日本造船工業会

技術部 佐々木、片野、湊 TEL：03-3580-1564

企画部 中橋、鈴木 TEL：03-3580-1563